# 山口大学漕艇部

## 水辺の環境を保つための艇庫での取り組み

山口大学漕艇部　2024年度主務　57期　安本　葉奈

# 山口大学漕艇部

部員数：58人
活動場所：小野湖（星が良く見える山の中の素敵な艇庫）

面積約２．５平方ｋｍにおよぶ山間の静かな人造湖で、艇庫のある宇部市の上水や工業用水湖となっている。大学からの距離は約２５ｋｍで、車で40分ほどかけて艇庫入りしている。
魚や亀、水鳥など多くの生き物が生息しており、自分の船を持ち込んで釣りをする人も多くみられる。

山口大学漕艇部では、普段ボートを漕いでいる小野湖の環境を守るために次のような取り組みを日常的におこなっている。

【艇庫での主な取り組み】

・モーターボートでのごみや流木拾い

・練習後の艇庫周辺や船台付近の清掃

・艇庫飯を作る時に使用した油は固めて捨てる

・水分補給用のペットボトルの再使用

・モーターボートの給油はガソリンがこぼれないように下にタオルを置く

・シャンプーや洗剤を使いすぎない

・肉じゃがの汁なども最後まで食べる

# ごみ、流木拾い

選手の乗艇練習中、サポーターがモーターボートに乗って動画を取りつつ流木やごみ（空き缶やペットボトル、その他プラスチックごみなど）を集めている。

【効果】

・選手や艇の安全を守る。

・湖に浮かぶごみ（ペットボトルや空き缶など）をとることで**水質の改善**につながる

# 艇庫周辺や船台付近の清掃

週に1度、乗艇練習の後に全員で合宿所及び艇庫周辺の清掃を行っている。合宿所の清掃がメインではあるが、艇庫や船台付近の釣り人が残したり流れ着いたりしたごみを回収している。

【効果】

・練習場所をきれいにすることで、気持ちよく安全に練習することができる。

・ごみが湖に流れ着いて**水質や水生生物に悪影響を及ぼすことを防ぐ。**

# ペットボトルの再使用

乗艇中の水分補給用のペットボトルを、水道水を入れて使いまわしている。
山口大学の艇庫は大学から遠いため、泊りがけでの練習が主である。しかし艇庫は山の中にあり、最も近いコンビニは歩いて1時間以上のところにある。そのため、選手の多くが持ってきていたペットボトルや水筒が空になると再度、飲料として水道水を注ぎ足して練習に向かう。マイボトルを持参する部員も多い。

【効果】

・ペットボトルの購入を最小限にする

・直接水辺に影響するわけでは無いが、ペットボトルやラベルのごみを処分する際に発生する**温室効果ガスの排気量を削減**する。

・金銭的な節約ができる。

## シャンプーや洗剤などの使用量を控えめにしている

食器を洗う時に、洗剤を使いすぎないよう泡立っているスポンジを使いまわしている。また、シャンプーやリンスなども一人一人が使用量を極力少なくしている。

## モーターボートの給油

モーターボートの給油の際に、タオルを敷いてからガソリンをいれている。

【効果】

- 小野湖への**ガソリンの混入を防ぐ**。
- 水を汚してしまう洗剤やシャンプーなどの**化学物質の量を抑える**。
- 小野湖に生息する魚や亀、水鳥などの生物の健康を守る。
- 洗剤やシャンプーに関しては買い足す頻度を抑え、金銭的な節約も兼ねている。

## 艇庫飯を作る際に使用した油は固めて捨てる

マネージャーが艇庫飯を作る際に油を多く使用した日は、薬で油を固めてから捨てている。また、固めるほど多くなくてもそのまま流さずに、ある程度ふき取ってから洗うようにしている。

## 肉じゃがなどの汁は残さず食べる

艇庫飯で、肉じゃがや野菜炒めなどの具以外の汁を含む料理の場合はひとりひとりが残さずきれいに食べる。

【効果】

- 排水として流れ出る**水に混ざる油の量を削減**する。
- 食器や鍋を洗うのが少し楽になる。
- 最後までマネージャーが作ってくれた艇庫飯を味わえる。

# まとめ

あまり大きいことはできていないが、日常的に些細な取り組みを行っている。日々の些細なこころがけは**「水生生物が住みやすい環境」と「自分たちが安全に生活・練習できる環境」を両立して守る**ことに繋がる。

今回紹介した取り組みはいずれも手軽に取り組めるもので、内容によっては練習のために必要不可欠である。

水辺の環境に配慮しつつ練習環境を整えることで、練習の効率も良くなると思うので、今後も取り組みを続けていきたい。

また、今回取り組みを考える上でサポーターやマネージャーによる配慮が大きいことに気づかされた。感謝を忘れず活動に従事していく。